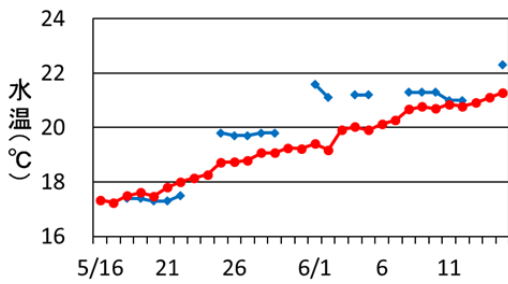


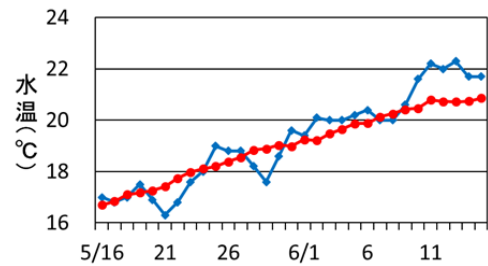


〔海の状況 (5/16~6/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通じて神子平年並み (平年差±0.5℃) から平年よりかなり高め (平年差1.0℃~1.5℃) で推移したが、6/1,6/2にははなはだ高め (平年差1.5℃~) の推移が見られた。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 5月はかなり低め (-1.5℃~-1.0℃) からやや高め (平年差0.5℃~1.0℃) で推移し、6月以降は平年並み (平年差±0.5℃) からはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図2)



◆ 本年 ● 神子平年(1988~2017年平均)
図1 若狭町小川地先における表面水温の推移



◆ 本年 ● 平年(過去20年平均)
図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：5月〕

5月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾沿岸で14℃~16℃と前年同様であった。水深50mでは、若狭湾沿岸で12℃~14℃と前年より水温が低くなっていた。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域が前年並みの接岸であった。水深200mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲は前年同様であった。(図3)

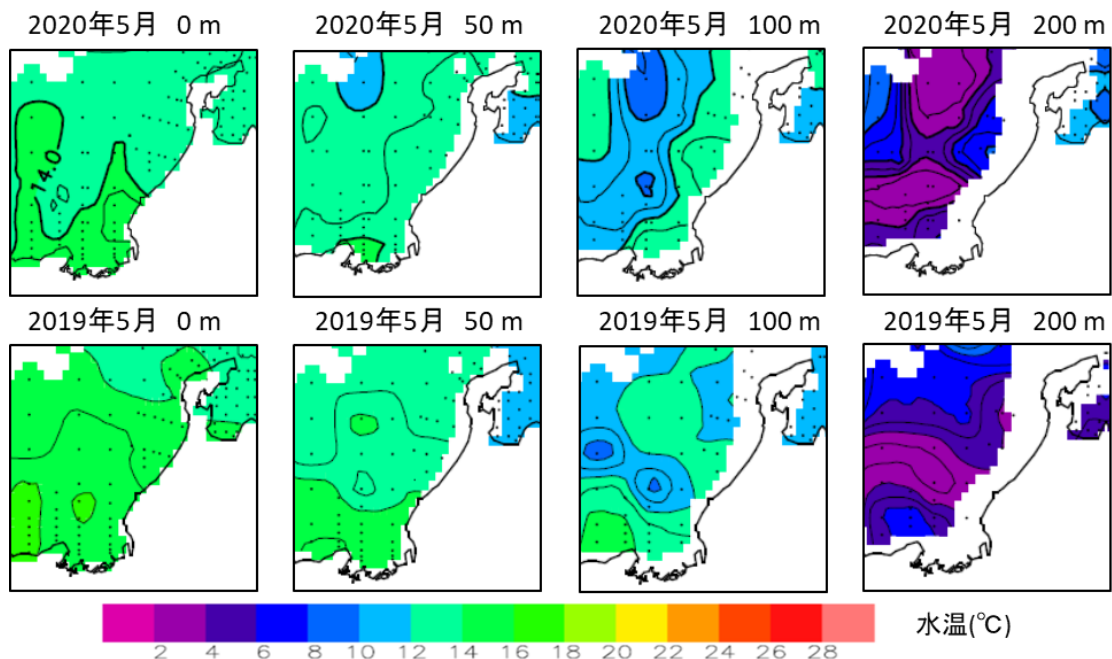


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

大型クラゲ情報

長崎県対馬周辺海域で6月16日に定置網への入網が2個体確認されました。ただしサイズが20cmと小型で、写真等により試験研究機関が確認していないため種未定とのことです。尚、長崎県での初確認は過去2年間6月でした。福井県での確認情報は今のところありませんが、今将来遊する可能性がありますので大型クラゲの出現にご注意ください。(漁場環境グループ 岩崎 俊祐)

〔県内の漁模様：5月〕

2020年5月の県内の総漁獲量は1,842 tで、前年同月を150 t上回った。

〔定置網〕

漁獲量は1,224 tで、前年同月を299 t上回った。アジ類、ブリ（ワラサ、ハマチ）等は下回ったが、ブリ（ブリ、ツバス）等は大きく上回った。

〔底びき網〕

漁獲量は375 tで、前年同月を271 t下回った。ハタハタ、アカエビ等は上回ったが、ホタルイカは大きく下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は243 tで、前年同月を122 t上回った。タコ類、キダイ、アマダイ等は下回ったが、スルメイカは大きく上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(5月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差	魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
カタクチイワシ	2,802	10,938	5,115	-8,136	-2,313	ハタハタ	58,407	3,501	8,022	54,906	50,385
アジ類計	26,808	160,478	123,650	-133,671	-96,842	メバル類	912	991	1,141	-78	-229
サバ類計	4,886	20,436	21,848	-15,550	-16,962	ニギス	2,142	2,811	1,474	-669	668
マグロ類	2,466	481	5,442	1,984	-2,976	ホタルイカ	150,944	457,923	165,932	-306,979	-14,988
ブリ類計	980,230	502,491	673,707	477,739	306,523	タコ類	3,968	3,537	7,930	431	-3,962
ブリ	431,991	168,773	146,438	263,218	285,553	アカエビ	83,616	75,764	69,342	7,853	14,274
ワラサ	78,721	149,212	116,302	-70,491	-37,581	その他エビ	5,379	9,216	7,244	-3,837	-1,864
ハマチ	15,404	54,491	57,195	-39,087	-41,791	その他	10,089	15,851	33,956	-5,762	-23,867
ツバス	454,114	130,015	353,751	324,099	100,363	合計	375,156	646,390	436,468	-271,234	-61,311
ヒラマサ	9,463	4,964	4,032	4,499	5,431						
サワラ	56,019	56,815	35,109	-795	20,911						
トビウオ	59,165	37,206	41,104	21,959	18,061						
マダイ	6,606	24,031	28,095	-17,425	-21,488						
スズキ	6,574	11,213	13,749	-4,639	-7,175						
ヒラメ	1,915	1,997	2,470	-82	-556						
カマス	333	2,138	1,262	-1,804	-928						
フグ類	8,456	33,104	35,205	-24,649	-26,749						
スルメイカ	4,519	13,015	11,169	-8,496	-6,650						
アオリイカ	10,200	777	1,676	9,423	8,524						
ケンサキイカ	16,129	5,428	5,700	10,701	10,429						
その他	27,256	39,153	43,630	-11,897	-16,374						
合計	1,223,827	924,666	1,052,963	299,161	170,865						

釣リ、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マダイ	3,671	4,864	4,094	-1,193	-423
キダイ	4,925	6,969	4,588	-2,044	337
アマダイ	4,132	6,043	5,891	-1,911	-1,759
スズキ	526	959	1,845	-433	-1,319
ヒラメ	1,403	1,939	3,532	-536	-2,129
その他カレイ	616	1,177	2,525	-561	-1,909
アナゴ	1,740	1,943	2,414	-204	-674
メバル類	1,496	3,192	4,284	-1,697	-2,788
スルメイカ	182,199	41,299	134,015	140,900	48,184
ケンサキイカ	2,103	593	624	1,510	1,480
コウイカ	2,245	2,844	3,945	-598	-1,700
タコ類	15,437	21,594	21,245	-6,158	-5,808
その他	22,522	27,360	39,184	-4,839	-16,662
合計	243,013	120,778	228,183	122,235	14,830

底びき網 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
キダイ	343	1,307	2,296	-964	-1,953
ヒラメ	577	1,333	1,869	-756	-1,292
アカガレイ	45,123	54,796	106,156	-9,673	-61,033
その他カレイ	13,315	15,732	28,694	-2,417	-15,379
フグ類	340	3,628	2,413	-3,288	-2,072

全漁法 (kg)					
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合計	1,841,997	1,691,835	1,717,614	150,162	124,383

※1 平年の値は2010-2019年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015-2019年の5年平均です ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：5月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：5月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：5月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：5月中旬～6月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…マイワシ78.6 t、ブリ8.2 t、フクラギ・コゾクラ7.2 t、サワラ類3.9 t、マアジ2.5 t、サバ2.1 t
 京都府…定置網…ブリ7.7 t、カタクチイワシ6.9 t、サワラ類1.6 t、ヒラマサ1.0 t、マアジ1.0 t、ケンサキイカ0.9 t
 兵庫県…定置網…ツバス554 kg、アジ395 kg、シロイカ71 kg、ハマチ32 kg、マルゴ31 kg、ヒラマサ28 kg
 鳥取県…まき網…マイワシ23.8 t、マアジ13.1 t、マサバ6.8 t、カタクチイワシ6.6 t、ウルメイワシ3.2 t、ブリ類3 kg

(漁場環境グループ 長島 拓也)

ワカメを安定生産するためにII

ワカメは福井県において大規模に養殖されている唯一の海藻です。11月下旬から12月初旬にワカメの幼葉が付着した種糸を養殖用の幹縄と呼ばれるロープに挟み込んだり巻き付けたりして海面に張ると、種糸から複数本のワカメが成長し、1月から3月に収穫することができます。ワカメの養殖生産量は、平成15年には100tを超えていましたが、近年は30t前後まで減少しています。また、一部のワカメ養殖業者において養殖生産量が不安定になっていることがわかってきました。生産量が不安定になっている原因としては、種糸の産地や年による種糸品質の違い、養殖方法の問題（時期・場所の選定、種糸の取り扱い）、環境の変化等、様々なことが考えられます。水産試験場では平成30年度から「ふくい海藻増養殖技術開発事業」に取り組んでおり、ワカメ養殖生産の安定と養殖技術向上を目標に研究を進めています。

昨年度、入荷したワカメの種糸の一時保管の方法・期間とワカメの成長・収穫量の関係を調査するため、水産試験場地先の生簀を利用してワカメの養殖ロープを設置し、保管方法（①海水で湿らせた紙に挟み半乾燥の状態冷蔵、②ろ過海水のかけ流し）・期間（0～10日）の異なる7つの試験区を設定して養殖試験を行いました（図1）。1月の水試日よりでは、試験の方法について説明しましたが、今回は試験の結果をお伝えいたします。種糸の一時保管により、ワカメの成長が悪化するのであれば、保管期間が長くなるほどワカメの成長は悪くなることが予想されましたが、試験の結果、1-2日程度の保管では著しい成長不良は認められませんでした（図2）。ただ、半乾燥状態で10日間保管した種糸は、幼葉が腐敗し、新たな芽が出ることもありませんでした。また、10日間かけ流しで保管した区では、2月3日の測定時には他の試験区よりも藻体が小さかったことから、初期の成長に遅れが生じ、その後他の試験区の成長が鈍化した後に追いついたと考えられました（図2）。3月18日の収穫時の藻体長は平均して80cm前後で、大きな個体では1.5m以上にまで成長しました。今回の試験の結果から、種糸の一時保管は、短期間であれば影響は少ないものの、長期の保管は幼葉を枯死させたり成長を遅れさせる可能性があることが明らかとなりました。本試験は水産試験場地先で実施しましたが、今後は実際に養殖現場で比較を行ってみる必要があると考えています。

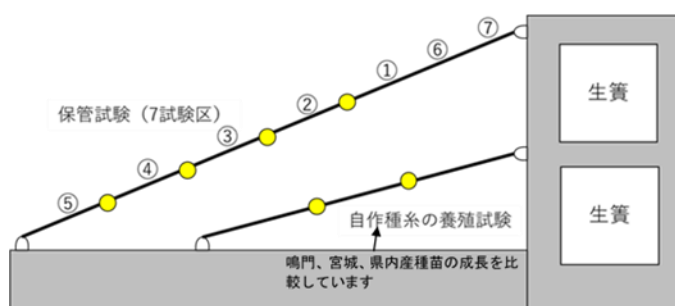


図1 養殖試験概要図（①～⑦は試験区番号）
①保管0日、②半乾燥1日、③かけ流し1日、④半乾燥2日、⑤かけ流し2日、⑥半乾燥10日、⑦かけ流し10日、●はウキ

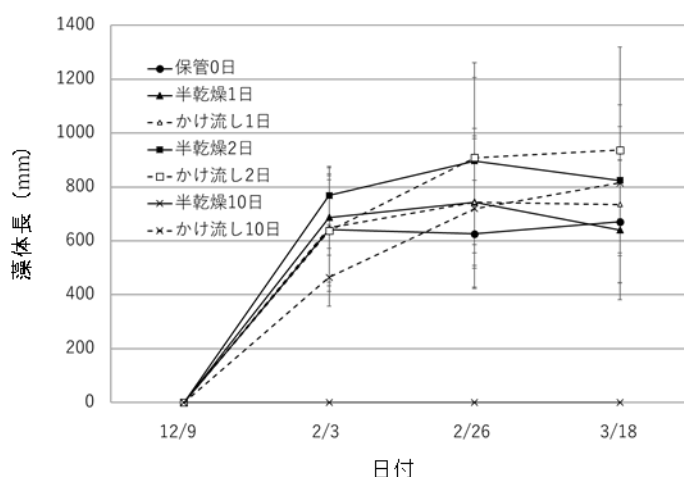


図2 ワカメの平均藻体長（グラフ中の縦棒は標準偏差を示す）